



平成14年 7月 8日発行



北海道 国際理解教育研究協議会



報 第53号



会長 真木 孝輝



事務局長 池田 幸一



ワールドカップに見る国際化と国際理解教育

北海道国際理解教育研究協議会
会長 真木 孝輝
(札幌市立もみじ台西小学校長)

あれほど心配されたワールドカップのフーリガン騒動は起きなかった。ヨーロッパや南米では、時として暴動や戦争まで引き起こしてしまうというサッカーの試合。

日本での開催においても、これらのフーリガンによる騒動は予想され、随分と周到なフーリガン対策を準備していたと聞く。しかし、ふたを開けてみると、大山鳴動してねずみ一匹の状態。水際でのフーリガンの来日を阻止したことの効果が大きいと思うが、それ以上に、日本人のどの国にも公平に応援するマナーの良さから、日本も随分と国際化したなあと感じたのは、私ばかりではないと思う。

変なナショナリズムに酔い、度を越した興奮した応援でひんしゅくを買うより、落ち着いた品の良いマナーでの日本人の公平な応援は見ていてさわやかなものであった。外国にもこの態度は好評であったと聞く。

私は個人的に、「日本人も成熟したなあ」と感心してしまった。随分手前味噌ではあるが、これは私たちが進めてきている国際理解教育の成果も、ささやかではあるが影響があるのではないかと喜んで嬉しくなってしまったほどであった。

さて今年から本研究会は、素晴らしい功績を残された高橋承造前会長の後を引き継いで、不肖私はその任を担うことになった。会員や各地区の皆様のお力をお借りして、会の成果を更に積み上げていこうと強く決意している次第である。

本年度から研究は、第6次研究の成果を引き継ぎその成果の上に、第7次研究に入る。テーマの「地球を見つめ、自分を見つめ、未来を切り拓く児童・生徒の育成」を目指し、「子どもと地球の関わりを作る教材作り」、「地球市民としての問題を解決していく学習活動の構築」の二つの研究の視点から主題の解明にせまっていこうとするものである。各地区の研究実践が来る10月25日に帯広で開催される、「第23回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会」で大きな成果となって実ることを願っている。

【 役 員 名 簿 】

顧問	中山 素水（道工業大学教授）	副会長	安藤 祇（札幌市立平岡中央小学校長）
"	本田 哲也（初代会長）	"	飯田 幸三（南茅部町立木直小学校長）
"	木皿 弘勝（第2代会長）		
"	千葉 福男（第3代会長）	監査	鈴木 久司（小樽市立手宮西小学校長）
"	磯貝 登（第4代会長）	"	遠藤 優（恵庭市立恵庭中学校長）
"	大泉 弘（第5代会長）		
"	石田 省子（第6代会長）	理事	豊田 收（乙部町立乙部中学校長）
"	山内 武道（第7代会長）	"	舟崎 征二（砂川市立砂川中央小学校長）
"	高橋 承造（第8代会長）	"	鹿野内賢一（豊幌町立稚咲内小学校長）
		"	久門 好行（帯広市立花園小学校長）
会長	真木 孝輝（札幌市立もみじ台西小学校長）	"	本間 秀昭（函館市立本通小学校長）
副会長	笹川 幸一（静内町立静内中学校長）	"	南 信義（旭川市立広陵中学校長）
"	射守矢秀治（寿都町立寿都小学校長）	"	岸 敏一（北見市立相内小学校長）
"	樋原 永幸（釧路市立柏木小学校長）	"	鞠子 順一（室蘭市立本室蘭中学校長）
"	後藤 隆司（羽幌町立幌北小学校長）	"	青山 信一（別海町立西春別中学校長）

【 事 務 局 】

事務局長	池田 幸一（札幌市立新陵東小学校長）	庶務部長	斉藤 吉文（札幌市立みどり小学校）
次 長	後藤 宏（札幌市立南の沢小学校教頭）	" 副部長	大磯 俊一（小樽市立高島小学校）
"	石塚 信彦（芦別市立西芦別小学校教頭）	広報部長	古里 和雄（札幌市立手稲西小学校）
"	渡辺 常彦（倶知安町立東陵中学校教頭）	" 副部長	青山 孝博（苫小牧市立啓北中学校）
"	中村 一治（千歳市立長都小中学校教頭）	会計部長	澤田 崇（札幌市立幌北小学校）
"	佐藤 稜子（三笠市立三笠中学校）	" 副部長	藤野十志幸（北広島市立西部中学校）
研究部長	中村 淳（札幌市立月寒小学校）	組織部長	廣島 直（札幌市立みどり小学校）
" 副部長	広瀬 保志（札幌市立三角山小学校）	" 副部長	橋本 直樹（余市町立余市西中学校）
" 副部長	類家 斉（札幌市立山鼻南小学校）		

北海道国際理解教育研究協議会事業計画

1, 基本方針

21世紀に生きる北海道の子どもたちに、国際社会に貢献できる日本人としての資質を育成する国際理解教育の在り方を探る。

- ・学校教育における国際理解教育の在り方を、主に授業を通して深める。
- ・新しい教育の流れの中で、国際理解教育の果たすべき役割を探る。
- ・各地区との交流を深めると共に、研究を支える組織の整備を図る。

2, 事業内容 [研究団体としての責務を果たす]

- (1) 全道大会を開催、研究の成果を交流する。
- (2) 研究成果の交流のために、「研究集録」や「研究紀要」を発行する。
- (3) 「広報」を発行し、研究の成果や情報を交流する。
- (4) 地区との連携を密にし、組織を強化し、各地区の研究推進の手助けをする。
- (5) 派遣教員と帰国教員に対して、研修会を開催し、それぞれの役割をサポートする。
- (6) 国際理解教育に必要な各種資料を収集（インターネット・Eメールを含む）し、要望に応じて提供する。

3, 今年度の重点

- (1) 第23回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会の成功を図る
 - ・研究団体として会員の資質向上と研究の深化を図る。
 - ・北海道の国際理解教育の普及に努める。
- (2) 地域に密着した各地区の研究の深化と交流を図る
 - ・研究主題を共通の窓口としながら、地区の独自性を発揮した研究を推進する。
 - ・地域、時代の要求を生かした研究を進め、会員の拡充を図る。
 - ・帰国教員の貴重な体験を活用する。
- (3) 教科及び総合的な学習等の時間における国際理解教育の在り方を探る
 - ・教科及び総合的な学習の時間での国際理解教育の在り方を実践研究する。
 - ・各地区の研究大会に参加して、積極的に研究交流を図る。

平成14年度 年間事業計画一覧表

北海道国際理解教育研究協議会

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業予定	・事務局組織 ・事務局引き継ぎ		・広報発行－1 ・名簿作成 ・会費納入依頼		・ジュニアアートキャンプ		・広報発行－2 ・全道大会十勝 ・帯広大会 10月25日		・研究集録発行	・派遣教員研修会、帰国教員報告会、激励会 ・帰国報告集	・広報発行－3 ・研究集録配布 ・研究紀要発行	
会長	・道教委等関係 機関挨拶		・道教委研究会 開催挨拶		・全国大会参加 ・理事会出席		・全道大会、理 事会総会挨拶			・研修会挨拶 ・理事会挨拶	・道教委へ（帰 国報告集実践集	
会議予定	・役員会（事務 局組織）	・第1回事務局 会（活動計画）		・役員会（研究 大会構想） ・第2回事務局 会（大会準備）		・第3回事務局 会（大会準備）	・理事会総会 ・地区交流会	・第4回事務局 会（大会反省、 研修会激励会準 備）		・理事会総会 ・報告会研修会 激励会運営	・第5回事務局 会（次年度構想）	・役員会（新年 度構想）
庶務	・役員、事務局 員委嘱状送付	・第1回事務局 会案内発送	・大会1次案内 配布	・第2回事務局 会案内発送	・大会2次案内 配布	・第3回事務局 会案内発送	・理事会、研究 担当者会案内発 送	・大会礼状送付 ・第4回事務局 会案内発送	・理事会、帰国 報告会、派遣教 員研修会激励会 案内送付	・第5回事務局 会案内発送	・活動の反省と 次年度構想	
研究	・研究構想検討 ・ジュニアアート キャンプ ・道新との打合	・大会研究担当 者との連携	・大会での研発 者依頼	・夏の学習会	・実践資料の収 集		・大会での地区 研究交流	・次期大会校と の研究打ち合わ せ開始	・大会研究のま とめ	・研修会運営 ・冬の学習会	・研究紀要編集	・研究紀要発行 ・次期大会校と の打ち合わせ
組織	・地区名簿送付 依頼	・会員名簿作成	・会員名簿配布	・帰国報告集原 稿依頼		・帰国報告集編 集印刷		・激励会しおり 作成	・帰国報告集編 集発行	・帰国報告集配 布 ・激励会運営	・活動の反省と 次年度構想	・研究集録、研 究紀要発送
広報		・広報編集会議 ・広報原稿依頼	・広報発行－1	・広報編集会議	・広報原稿依頼		・広報発行－2	・広報編集会議	・広報原稿依頼	・広報発行－3	・活動の反省と 次年度構想	
会計	・徴収簿整理	・会費納入依頼 ・新年度徴収簿 作成	・会費徴収	・会費徴収 ・帰国報告集広 告依頼		・中間決算		・大会会費集金 ・研究書籍販売	・会費納入依頼 ・会費納入礼状 領収書送付	・決算報告 ・監査 ・激励会会計	・活動の反省と 次年度構想 ・会費納入督促	・決算引き継ぎ

平成14年(2002)年度
第29回 全 国 第 6回 九 州 ブ ッ ロ ク
海外子女教育・国際理解教育研究大会
長 崎 大 会

ご 案 内

大会主題

「世界に羽ばたき共生できる心豊かな子どもの育成」
- 新たな時代の「開国」を長崎から -

期 日 平成14年(2002)年8月6日(火)～7日(水)
会 場 長崎外国語大学・短期大学
〒852-8065 長崎市横尾3丁目15番1号

大会記念講演

長崎外国語大学・短期大学学長 光田 明正 氏
演題「グローバル化と教育」

<プロフィール>

東京大学経済学部経済学科卒業,文部省入省,外務省・OECD日本政府代表一等書記官,
文部省学術国際局留学生課長・国際文化課長等,文部省大臣官房審議官(学術国際担当),
国際交流基金常務理事,桜美林大学国際学部教授,カリフォルニア大学サンディエゴ校客
員教授,カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員教授,

平成13年4月より長崎外国語大学・長崎外国語短期大学学長

- 主な著書 -

『中華の発想と日本人』(講談社)1993

『「国際化」とは何か』(玉川大学出版局) 1998

参加型ワークショップ

テーマ:「共生する地球市民」

～あなたの教育目標は何ですか?～

ファシリテーター ながさき国際理解教育センター代表 **牛嶋 洋一郎氏**

このシンポジウムは、全員参加です。参加体験的ディスカッションを通して現代が抱える諸問題を検討することで、望ましい地球市民の在り方について考えていきます。考えを深めていく中で、自らの教育観をふりかえります。留学生や在日の外国人も多数参加する予定です。

分科会

第1分科会 (海外子女教育の現状と課題)

在外教育施設(日本人学校・補習授業校)では、それぞれの国や地域の特性を生かした教育活動が展開されている。それは、まさに国際理解教育であり、新学習指導要領が求めている特色ある学校づくりの姿である。これらの教育実践を通して、これからの海外子女教育の現状と課題について考えてみたい。

第2分科会 (帰国子女教育・外国人子女教育の現状と課題)

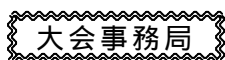
大都市圏に多かった外国転勤者も、今や全国に広がってきた。そのため、帰国子女を抱える学校も増えたが、彼らが海外において経験してきたことが十分生かされているとは言い難い。今後、彼らの特性を生かす教育のあり方について考えてみたい。また、日本に住む外国人もますます増え、彼らに対する教育の必要性も課題となってきた。本県でも、中国人子女を多く抱え、適応性を含めて教育のあり方を探ってきた。教育に国境がなくなってきたいま、帰国子女教育・外国人子女教育の現状を話し合うことで、重要性や課題について考えてみたい。

第3分科会 (義務教育段階における国際理解教育の実践と課題)

本大会が開催される平成14年度より、「総合的な学習の時間」(以下総合と略す)が完全実施されるが、移行期間の間に様々な実践がなされている。この中で、国際理解を視点を据えた総合の実践(小学校・中学校)をもとに、本県がとらえている国際理解教育のねらいであるコミュニケーション能力の育成・異文化理解・自国文化理解等について協議し合うことで、これからの国際理解教育のあり方や総合のあり方について考えてみたい。

第4分科会 (地域社会と連携した国際理解教育の取り組みと課題)

国際理解教育のねらいの一つに自国文化理解をあげている。自国を理解するということは、地域を見つめ、地域を考え、地域を愛する気持ちが大切となってくる。国際化を推進していくには、まず、地域から発信していくことが肝要であろう。様々な地域からの発信を学び、話し合うことで、地域社会と連携した国際理解教育の取り組みの現状と課題について考えてみたい。



長崎市立横尾小学校 松本 直道

〒 852-8065 長崎市横尾 2-16-2

FAX095-857-4476

Email e50@nagasaki-city.ed.jp

(全海研ホームページ及び、大会事務局案内より)

地区研究大会の案内

第20回釧路地方国際理解教育研究会研究大会

「広く世界に目を開き、豊かにたくましく生きる児童生徒の育成」
国際性と共生の意識を培う国際理解教育の展開

ご案内

いよいよ新しい学習指導要領が実施され、教育改革の元年を迎えました。本会ではこれまで、国際理解教育のあるべき姿を模索し、研究を積み重ねて参りましたが、本年度で創設20周年を迎えることになりました。これを機に、様々な20周年記念事業を実施する計画を立てておるところであります。この研究大会も20周年記念事業の一環として公開し、皆様にご助言・ご指導を頂く機会にしたいと考えております。どうか大勢の方々にご参加いただければ幸いです。

釧路地方国際理解教育研究会 会長 樋原 永幸

期 日 小学校；平成14年11月13日（水）
中学校；平成14年11月14日（木）
会 場 小学校；釧路市立柏木小学校 釧路市柏木町11番15号
中学校；釧路市立景雲中学校 釧路市東川町16番1号

公開授業

小学校は、低学年・中学年・高学年各ブロック
中学校は、釧路市立景雲中学校池田泰弘教諭

申込み方法

参加希望の方は、11月1日（金）までに
釧路市立新川小学校の済藤までお知らせください。
TEL 0154-23-2546 FAX 0154-23-2547
Email info@shinkawa-e.kushiro.ed.jp

北海道国際理解教育研究協議会

夏の学習会・帯広

期 日 平成14年7月29日（月） 午後1時 より

場 所 北海道国際センター（帯広）
2階 オリエンテーションルーム

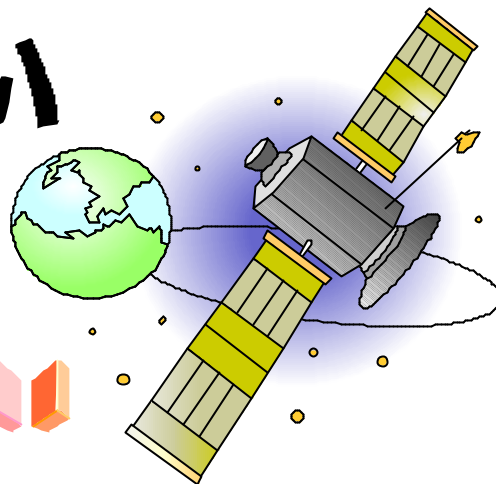
〒 080-2470
帯広市西20条南6丁目1-2

内 容

- ・十勝・帯広大会の授業内容について
- ・第7次研究主題についての交流
- ・各地区の研究交流
- ・JICA施設の見学

10月に行われる授業の検討をしながら研究について共通理解を図りたいと思います。各地区の研究担当者だけでなく、ぜひ授業作りに参加したいという皆さんの参加をまっけています。

海外からの お便り



今回もハノイ日本人学校の武山先生からベトナムのことについてのお便りをいただきましたのでご紹介します。

ハノイ通信

平成14年5月18日(土)発行

新年度が始まり1か月半。新しい環境や学年で心機一転ご活躍されていることと思います。

私も今年度は、久しぶりの小学部1年生を受けもたさせていただき、毎日元気な子どもたちと動きまわっています。

新年度もハノイ通信を不定期に発行させていただきますので、ご愛顧のほどどうぞよろしくお願いいたします。

最近のハノイの様子

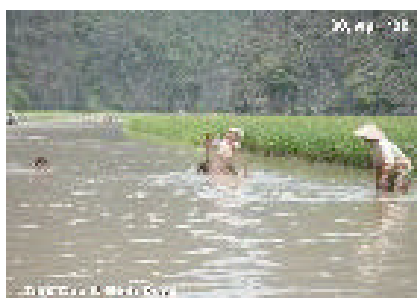
5月初旬からハノイには、夏が到来しました。毎日の気温が30度前後、時折襲う稲光混じりのスコール性の雨(今夜がそうです)、自分の影が真下に来つつあるといった状況です。やはり、旭川と違い真下から見る太陽は、大変力強さを感じます。

6月末に、成田空港ーノイバイ空港(ハノイ)の直行便が就航、来年東南アジアでシーゲーム(東南アジア諸国のオリンピック)が開催されることもあって、昨年に比べるとハノイの街も整備されつつあるように感じます。

例えば、道路の拡張工事、グラウンドや体育館の建設、大きなデパートの進出などです。きっと私が本帰国するころには、かなり都市化が進むものと思われます。以前ハノイ通信でご紹介したハノイらしさが失われていくのが何となくさびしくなってきた今日この頃です。

タムコック

3月から4月にかけては、学年末業務や新年度準備、新しく派遣された先生方のお手伝いなどでなかなか休みがとれませんでした。ちょっと落ち着いた先日、久しぶりに家族でタムコックというところへ行ってきました。タムコックというところは、ハノイから南におよそ2時間ぐらいのところにある面白いところです。何が面白いかというと、大きな大きな田んぼの中を、今にも壊れそうな小舟に乗りながらぐるっと遊覧できることです。小舟に乗りながら鍾乳洞をくぐったり、稲の発育状況を見たり、タニシ採りのお兄さんがいたり、しつこい物売りのおばさんに囲まれたりできることです。



ハノイの日本食

今日は、土曜日でしたので買い物に出かけました。最近新しくオープンしたばかりの日本の食材店へ行ってみました。ハノイには今まで、日本の食品をおいているところは、唯一「西友スーパー」だけでした。でも近頃は日本食を扱う小さな食材店がちらほらできています。でもどれをとっても高いのが現状です。例えば「BOSS の缶コーヒ」は、243円、「カレーのこくまる」が564円、「桃の天然水」が295円、「ポケモンカレー」が282円、「ミツカン酢900ml」が756円でした。まだまだ日本食はハノイでは高嶺の花です。

ハノイ通信

平成14年6月30日(日)発行

いよいよ明日からは7月。夏休みまで3週間あまりになりました。毎年そうですが、やはり夏休み前は何かと今まで以上に忙しくなりますが、目の前にある「ナツヤスミ」の言葉で何とか頑張って仕上げようとファイトがわいてきます。

私の方も、夏休み旭川に帰って、再びハノイに戻ると、在外派遣のゴールも見えてきます。正直なところ、まだまだしなければならぬことがいっぱいなのですが...

ハノイニュース

ハノイー成田間の直行便が6月29日より就航しました。ハノイにも日本人が急増することでしょう。

ただ今の気温、35度。湿度80%

太陽が北回帰線付近にあるために、現在の影は南よりにあります。

生ライチの値段が1kgおよそ40円。おいしいですよ。

ハノイ日本人学校の児童生徒数現在75名。

遠足でライチ狩り

先日、ハノイ日本人学校では、ライチ狩り遠足を行いました。

日本人学校からバスに揺られること1時間半。ハノイ市郊外の田園の中に、ライチ園はあります。旭川では、永山「kukai」の焼き肉バイキングレストラン等でお目にかかることができましたが、それは冷凍のライチでした。ところがハノイでは、生ライチを食べることができるのです。やはり生のライチは美味しいです。私もここに来て、初めて食べたのですが、甘くてみずみずしくて旭川でも食べることができたらなと思いました。当然日本人学校の子どもたちも、ライチ園では木になっているライチをどんどん取りながら口にほおばり満足げでした。

ベトナムの子どもとの交流会

この出来事も6月にありました。毎年1回、日本人学校の子どもとベトナムの子どもとの交流会が行われます。今年も先日行われたのですが、それぞれの出し物として、日本からは「盆踊り」、ベトナムからは「バンブーダンス」とそれぞれの国の特徴をあらわす出し物で、子どもたちは大喜びでした。また、その後のアトラクションでは、ハノイのサーカス団に来てもらって、猿回しやコントなどもあるサーカスの実演。なかなか見ごたえがありました。



編集後記

今回のハノイ通信は、いかがでしたでしょうか。

ご意見ご感想をお待ちしております。

また、8月1日から20日まで旭川にいますので何かの際にはお声がけいただければ

大変うれしく思います。

次回は、9月下旬に発行予定??です。

ハノイ日本人学校

武 山

takeyama

昌 裕

masahiro

会費納入のお願い

日頃より本会の活動につきまして、深いご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

本会は皆様の会費によって運営されております。会費は全道大会の運営と研究推進、会の円滑な運営、推進のため、お手数でも滞りなく納入いただきますようお願い申し上げます。

なお、納入状況等につきましての照会は、事務局会計澤田崇までお願い申し上げます。

照会先

事務局会計 澤田 崇（札幌市立幌北小学校）

TEL 011-726-2461 FAX 011-716-0944

北海道国際理解教育研究協議会

年会費 3 0 0 0 円

郵便振り込みにてお願いいたします。

振込先 澤田 崇

口座番号 0 2 7 5 0 - 4 - 3 4 0 9

通信欄には、氏名、支払い年度、おわかりでしたら会員番号もお書きいただくと幸いです。

ご意見・ご感想・情報をお寄せください

北海道国際理解教育研究協議会

E mail kokusai-spok@col.hi-ho.ne.jp

道内、国内、海外を問わず情報を事務局までお寄せください。また広報についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

各地区における活動状況、実践報告、研究推進、各国の情報等を文書と画像も添付してお送りください。変換後、順次、広報に掲載して参ります。たくさんの情報をお待ちしております。

発行 北海道国際理解教育研究協議会広報部

会 長 真木 孝輝（札幌市立もみじ台西小学校長）
事務局長 池田 幸一（札幌市立新陵東小学校長）
広報部長 古里 和雄（札幌市立手稲西小学校）

